

導入牛検査、実施しませんか？

滋賀県では現在、導入牛に対して慢性疾病である牛伝染性リンパ腫 (EBL)、ヨーネ病および牛ウイルス性下痢 (BVD) の検査を推奨・実施しています。

昨年度、滋賀県へ導入前後の検査で、12頭の牛が EBL の抗体または遺伝子検査で陽性となりました。他県でも導入牛において BVD 陽性が確認されるなど、外部から上記3疾病が侵入するリスクはゼロではない状況です。

EBL、ヨーネ病については感染してから明確な症状を示すまで数年かかる場合があります。BVD も胎児期に感染し、ウイルスを排出し続ける持続感染牛 (PI 牛) が存在します。PI 牛は明確な症状を示さず、EBL、ヨー

ネ病と同様、気付かないうちに感染を広げてしまう可能性があります。検査結果が判明した陰性牛を導入するようにしましょう。また移動中に他の牛から感染する場合もあるので、導入前に陰性であっても導入後再び検査することをお勧めします。導入牛から農場にいる牛に感染する場合もあるので、検査で陰性が確認されるまでは他の牛から隔離して飼養するようにしましょう。上記3疾病(に関わらずですが)は一度侵入を許してしまうと、清浄化が難しい疾病でもあります。農場を疾病から守るためにも、今一度導入牛検査の実施について、検討していただければと思います。実施を希望される場合は、家保にご連絡ください。(中山)